

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ 現代文 (50点)

問一 各1点×5＝計5点

(ア) 猛威 (イ) 随分 (ウ) 功績

(エ) 次善 (オ) 感心

問二 10点

【模範解答例】自然科学の方法を、(A 2点)

従来のように工業の方面にだけ利用するのではなく、(B 2点)

人間の精神活動の方面にも役立てようと考え、(C 2点)

一部の文学者は、その方法を文学研究に用いたり、(D ① 1点、② 1点)

研究の基本理念としたりしようとしていること。(E 2点)

◎各加点点要素の加点点の条件

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「自然科学の方法を」(2点)

※A・B・Cで、「この運動」の指示内容の指摘

○「自然科学の発展の結果得られたことを」も可。

△「自然科学を」・「科学を」は、文学者が自然科学に携わるように取れるので△1点。

△「自然科学の問題を」は、「問題」の指す内容が不明瞭であるので△1点。

△「物理学発展の結果を」は、指示語の後ろにある具体的内容の部分であるので△1点。

B 「従来のように工業の方面にだけ利用するのではなく」(2点)

※A・B・Cで、「この運動」の指示内容の指摘

○「従来(のように)」・「工業方面にだけ利用ではなく」の二成分がそろっていれば可。

×「工業方面に利用するのではなく」は不可。

C 「人間の精神活動の方面にも役立てようと考え」(2点)

※A・B・Cで、「この運動」の指示内容の指摘

○「文化の向上に役立てようと考え」も可。

D 「一部の文学者は、その方法を文学研究に用いたり」(2点)

※D・Eで、「文学者の側」のあり方の説明。二つに分けて採点する。

D ①「一部の文学者」「文学者の中には」など可(1点)

D ②「その方法を文学研究に用いたり」(1点)

※「文学に」・「作品に」は、「作品の創作」としていても許容する。

E 「研究の基本理念としたりしようとしている」と(2点)

※D・Eで、「文学者の側」のあり方の説明。

○「信念」・「考え方の基本」・「その人の基礎」も可。

△「その人の『哲学』」は、本文中の比喩をそのまま用いているので△1点。

問三 9点

【模範解答例】自然科学とは、 (A 1点)

高遠に思えるような先端の理論を明らかにしようとするものではなく、 (B 2点)
人々を取り巻く自然現象を、 (C 2点)

既知の知識によって、 (D 2点)

一つ一つ系統立てて積み上げて説明していくものであるということ。 (E 2点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「自然科学とは」(1点)

※傍線部の主語を明示。

○「科学とは」も可。

B 「高遠に思えるような先端の理論を明らかにしようとするものではなく」(2点)

※筆者が否定的に考える内容の指摘。

○「高速」「先端(の理論)」の二成分があれば可。

△「高遠に思えるようなものを明らかにしようとするものではなく」は、筆者の論のまとめが不十分であるので△1点。

△「先端の理論を明らかにしようとするものではなく」は、筆者の論のまとめが不十分であるので△1点。

△「即効性のあるものではなく」は、本文の「アルカロイド」を一般化してはいるが、「効果があるかどうか」ということ自体が比喩的な内容になるので△1点。

C 「人々を取り巻く自然現象を」(2点)

※C・Eで筆者が本来的だとする科学のあり方の説明。

○「人々を取り巻く(日々の、なども可)」「自然現象」の二成分があれば可。

△「身の回りのことを」は、自然科学の対象を広げ過ぎていると考えられるので1点。

△「自然現象を」だけは△1点。

D 「既知の知識によって」(2点)

※傍線部の後ろにある「常識」という表現の言い換え。

○「基礎的な土台」も可。

△「常識」は、言い換えがなされていないので△1点。

△「これまでの事実」は、自然科学の知識以外も指すことになるので△1点。

E 「一つ一つ系統立てて積み上げて説明していくものである」と「ひとつひとつ」(2点)

※C・Eで筆者が本来的だとする科学のあり方の説明。

○「一つずつ基礎から理解するものである」ということ「も可」。

△「説明していくものである」ということは本文の「毎日喰べていて」のニュアンスが不十分なので△1点。

△「日々接して効果が出るものである」ということは、「効果があるかどうか」という比喩的な内容になるので△1点。

問四 12点

【模範解答例】自然現象について、地道に一つ一つの知識を

整理していくことが本来の科学であるはずなのに、 (A 2点)

目新しい知識ばかりを紹介する大衆向けの科学雑誌を読み、 (B 2点)

それに触発されて科学者になる人が増えると、 (C 3点)

その人は真の科学者にはなれず、 (D 2点)

その後の科学が本来のあり方とは異なった方向に進む可能性があるから。 (E 3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「自然現象について、地道に一つ一つの知識を整理していくことが本来の科学であるはずなのに」(2点)

※筆者の考える科学のあり方の説明。

○「本来の科学」が「地道に一つ一つの知識の整理」／「日常の知識の整理」／「日常的な常識の整理」であることが書けていれば可。

△「本来の」「はずなのに」などが欠けているものは△1点。

B 「目新しい知識ばかりを紹介する大衆向けの科学雑誌を読み」(2点)

※「通俗科学雑誌」の内容説明とそれを読む読者についての説明。

○「目新しい知識」「大衆向けの科学雑誌」(大衆向けの雑誌であることがわかれば可)の二成分があれば可。
×「通俗科学雑誌」はこの場面での「通俗」を理解できておらず不可。

C 「それに触発されて科学者になる人が増えると」(3点)

※「燈台守になりたい人」の説明。

D 「その人は真の科学者にはなれず」(2点)

※「燈台守になられては困る」ことの説明。

○「偽りの科学者になってしまう」なども、同じことを説明しているので可。

×「真の」「正しい」のニュアンスがないものは不可。

E 「その後の科学が本来のあり方とは異なった方向に進む可能性があるから」(3点)

※「燈台守になられては困る」ことの説明。

○「その後の科学が本来のあり方とは異なった方向に進む」「可能性」の二成分が揃っていれば可。

△「その後の科学が本来のあり方とは異なった方向に進むから」は、「可能性がある」ことについて触れていないので△2点。

* 「燈台守になりたい人」を「通俗科学雑誌」と捉えているものはC・Dの観点は0点。

問五 14点

【模範解答例】 科学についての既知の知識と科学的な

思考のしかたを正しく普及するには、 (A 2点)

自然現象への疑問の呈し方、 (B ① 1点)

その疑問の追究のしかたと、 (B ② 1点)

そこから得られる新しい知識を、 (B ③ 1点)

飾らずに事実を羅列して示すことが大切で、 (C 2点)

読者はそのようにして示された自分の知らない

事実を知ることにより面白さを感じ取るが、 (D 2点)

その面白さに広い意味での芸術としての

科学の美を感じさせることができれば、 (E 2点)

科学が文化の向上のための一要素になり得ると考えている。 (F 3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B (①)～③)・C・D・E・Fに関して部分採点

A 「科学についての既知の知識と科学的な思考のしかたを正しく普及するには」(2点)

※A・Cで「事実の羅列」が正しい科学の普及に必要なということを説明。

B 三つに分けて採点する

① 「自然現象への疑問の呈し方」(1点)

② 「その疑問の追求のしかたと」(1点)

③ 「そこから得られる新しい知識を」(1点)

※「事実の羅列」自体を説明。

C 「飾らずに事実を羅列して示すことが大切で」(2点)

※A・Cで「事実の羅列」が正しい科学の普及に必要なということを説明。

○ 「科学者の取り組みをありのままに示すことが大切で」も可。

D 「読者はそのようにして示された自分の知らない事実を知ることにより面白さを感じ取るが」(2点)

※「事実の羅列」が読者の関心を引くことの説明。

E 「その面白さに広い意味での芸術としての科学の美を感じさせることができれば」(2点)

※「事実の羅列」の面白さに芸術としての美があることの説明。

F 「科学が文化の向上のための一要素になり得ると考えている」(3点)

※本文冒頭にある、「科学が文化の向上に役立つ」ようになる可能性を持つことの説明。

○ 「科学が文化の向上のための一要素」「可能性がある」の二成分があれば可。

△ 「可能性」への言及がないものは△2点。「可能性」は「なり得る」などで可。

㊦ 現代文 (50点)

問一 10点

【模範解答例】 震災で住む家も失い、血縁に救いを求めるしかない

切迫した状況にあったとはいえ、 (A 2点)

青年時代に肉親に恥をかかせ、ひどく迷惑をかけた自分のような人間を (B 3点)

温かく迎え入れてくれた長兄の心遣いに恐縮し、 (C 3点)

血のつながりの有り難さをかみしめている。 (D 2点)

◎各加点要素の加点の条件

A 筆者が生家に帰らざるを得なくなった状況の説明。【2点】

○戦争によって生活に困っていたということが分かれば可

△「罹災」「生活に困り」など「戦争」がわからないものは1点

B 本文の「私は、どうも、二十代に於いて肉親たちのつらよごしの行為をさまままして来たので、いまさら凶々しく長兄の厄介になりに行けない状態であった」と対応する内容。【3点】

※二つに分けて採点する。

B ① 「青年時代」／「若い頃」／「以前」／「かつて」という要素 (1点)

B ② 「つらよごし」／「恥をかかせた」という要素 (2点)

△「迷惑をかけた」はB ②△1点。

C 長兄優しさに対する筆者の思いの説明。【3点】

※二つに分けて採点する。

C ① 「兄の心遣い」／「兄の優しさ」という要素。具体的内容を書いても良い。(1点)

※「家族」でも許容する。

C ② 「恐縮」／「感謝」／「申し訳なさ」という要素 (2点)

△「うしろめたさ」は意味がずれるためC ②△1点。

D 京大の満点答案に求められると予想される説明。【2点】

※「やはり兄弟というものはありがたい」「弟のことを親身に思ってくれる兄への頭の下がる思い」といった説明でも2点与えてよい。ともかく筆者が「血のつながり」ということを意識しているということが読み取れる答案なら2点与えてよい。

問二 10点

【模範解答例】

利休自身は風雅の真髓をわきまえていたにもかかわらず、(A①2点)
風流の虚無など全く理解せずに自分に対抗心を燃やす秀吉に対して、(A②2点)
見下して距離を置くでもなく、(B①2点)
またひたすら忠誠心を示すでもなく、(B②2点)
真つ向から対峙しようとした利休の (C1点)
振る舞いの不可解さということ。(D1点)

◎各加点要素の加点の条件

A 風流・風雅の理解についての、利休と秀吉(太閤)との対比。【4点】

※二つに分けて採点する。

A① 利休の説明(2点)

○利休が風流／風雅の真髓をわきまえているという要素があれば可。

△「真髓」などの強調語句がなく「風流を解する」などの場合はA①△1点。

A② 秀吉の説明(2点)

○秀吉が風流虚無など全く理解していないという要素があれば可。風流を解さない、などでも可。

△「全く」などの強調語句がなく「風流を解さない」などの場合はA②△1点。

B 利休の秀吉への対し方の説明。本文の「太閤から離れるでもなく、またその権力をまんざらきらいでもないらしく、いつも太閤の身边にいて」をベースにした説明である。【4点】

※二つに分けて採点する。

B① 見下して距離を置くわけではない(2点)

B② ひたすら忠誠心を見せるわけではない(2点)

△本文の「その権力をまんざらきらいでもなく、いつも太閤の身边にいて」をそのまま使った答えはB②△1点。

(参考)筆者は「やっぱり利休は秀吉の家来でしょう? まあ、茶坊主でしょう? 勝負はもう、ついているじやありませんか」とも言っているから、「太閤から離れる」と対蹠的な在り方として「ひたすら忠誠心を示す」という説明をしてある。

C Bを受けて、利休の秀吉への実際の対し方を説明している箇所。【1点】

○利休と秀吉の双方が相手に「一本まいらせ」ようとして、あるいは「勝ちつく」そうとして張り合っている、対抗心を燃やしているといった説明でも可。

D 「不可解」という意味にほぼ対応する説明があればよい。【1点】

問三 10点

【模範解答例】 風流を競い合って何とか相手より優位に

立とうと闘う利休と秀吉の姿には、 (A 2点)

ただ自分のプライドを誇示しようとする非情な駆け引きがあるだけで、 (B 2点)

自分を魅了する人間に対して無垢の愛を注ぐというような、 (C 3点)

読者に感動を与える、小説の題材にふさわしい

要素は見出しがたいということ。 (D 3点)

◎各加点要素の加点の条件

A 利休と秀吉が風流を競い合う姿についての具体的な説明。【2点】

○「風流」「競い合う」の二成分がそろっていれば可。

△単に「競い合う」ということだけが示されている場合は△1点。

B Aについて、それがどのような性格のものであったかの説明。本文中の「男というものは、そんなに何もかも勝ちつくさなければ気がすまぬものかしら」から引き出された説明。【2点】

○「プライド(自尊心)」という語で説明されていれば、「非情な駆け引き」がなくても2点与えてよい。

△「何もかも勝ちつくそうとする」という本文の説明をほぼそのまま使っている場合は△1点。

△「ドライな駆け引き」／「非情な駆け引き」／「確執」などは、△1点。

C 本文の「太閤が、そんなに魅力のある人物だったら、いっそ利休が、太閤と生死を共にするくらいの初心な愛情の表現でも見せてくれたらよさそうなものだ」を簡潔にまとめたもの。【3点】

○本文の説明をなぞった「生死を共にするくらいの(初心な)愛情の表現」でも3点与えてよい。

△「初心な愛情表現」だけなら△2点。

△「愛」という語が示されているだけなら△1点。

D 小説(物語も可)を書くのにふさわしい題材ではない、そのような題材では小説に表現する気が起こらない、ということが明確に読み取れれば可。【3点】

※「読者に感動を与える」は、傍線部に含まれている内容の繰り返しだから無くても許容。

問四 10点

【模範解答例】

新内については全くの素人である筆者の兄が、 (A 2点)
新内の師匠に対して気後れもすることもなく、 (B 2点)
禍福に一喜一憂することなく

人生に処していくようにと諭す態度は、 (C 3点)

互いの立場を超越した実に堂々としたもので、 (D 1点)

傍らで見ている人間がいたなら

素朴な感動を覚えたであろうということ。 (E 2点)

◎各加点要素の加点の条件

A 本文に、新内について長兄は「全くの素人でいながら」とあるのをそのまま使ったもの。同内容可。

※二つに分けて採点する。【2点】

A ①「長兄(または、兄)」という語 (1点)

※解答のどこかにあればよい

A ②「新内については素人である」という内容 (2点)

B 本文の「悪びれもせず堂々と言っている」の「悪びれもせず」を「気後れすることもなく」と言い換えたもの。【2点】

○「悪びれもせず」をそのまま答案に使っていてもよい。「堂々と」でも可。

C 長兄が新内の師匠に与えた助言、諫言、激励の言葉をまとめたもの。【3点】

※本文の「お気の毒な身の上ですが、しかし、芸事というものは、心掛けさえしつかりして居れば、一年や二年、さみせんと離れていても、決して芸が下がるものではありません。あなたも、これからです、これからだと思います」とある。この部分を言い表せていれば可。

○「人生には禍福がある」「芸事／人生の心がけを」「諭す」の三成分があれば3点

※「諭す」は「言う」などでよい。

△「芸事／人生の心がけ」「諭す」のみであれば△2点

△単に「励まし」や「アドバイス」などだけでは△1点

D Dのポイントは、芸事の世界では明らかに上位にある相手に対して長兄が、対等あるいは、今風に言えば上から目線でものを言っているということ。そのニュアンスがあれば可。【1点】

E 「大向こう」に付せられた注から引き出された説明。【2点】

○「観客」／「大衆」／「傍らの人」等と、「感動」という二成分があれば可。

問五 10点

【模範解答例】「弟」という呼称は、

長兄の視点に立って見た自分の未熟さを客観的に提示し、 (A 3点)

それを卑下するような筆者の心情をうかがわせ、 (B 2点)

「居候」という呼称は、

迷惑を顧みずに押しかけて世話になっている

自分の肩身の狭い境遇を提示し、 (C 3点)

自分の不甲斐なさを甘受する心情をうかがわせる。 (D 2点)

◎各加点要素の加点の条件

※「弟」「居候」は、前者・後者という言い方でももちろん可。

※「弟」「居候」をはっきり区別した構造で書いていなくても、どちらの説明かが答案中から読み取れば、その部分を加点してよい。

※「肩身が狭い」についてはCとDのどちらか片方の要素とする。

A 「弟」という呼称の表現効果の説明。【3点】

※二つに分けて採点する。

A ①「弟」という呼称が「長兄(兄)」の立場(視点)から見られた自己の姿を筆者が提示しているという事が示されてこと。(2点)

※「客観的」という語は無くてもよい。

○「(長い) 兄の立場からみた自分」

△「長兄の視点から」という説明が曖昧な場合は、1点だけ与える。「兄との対比で見られた」「兄弟という関係の中の自分」といったもの。

A ②「未熟さ」(1点)

○「出来が悪い」「野蛮である」「兄と比較して小さい」「考えが浅薄である」など。

B 自分を「弟」と呼ぶ場合の筆者の心情の説明。「卑下」と類似した説明。【2点】

○「自虐的」「(自分の至らなさを) 恥じ入る」「(そんな自分の未熟さを) 情けなく感じる」など。

△「へりくだる」「敗北感」など1点

C 「居候」という呼称の表現効果の説明。【3点】

○「場違いな存在である」「常に遠慮しながら振る舞わねばならない」「自分が居ては行けない場所に居る」などの境遇を示していることがわかれば可

※ここに「肩身の狭い様子」とあってもよい。

D 「居候」としての筆者の心情の説明である。【2点】

○「不甲斐なさ」は、「はがゆい」「申し訳ない」なども可。

※ここに「肩身の狭い思い」とあってもよい。

三 古文(50点)

問一

(一) 10点

【模範解答例】この後宮の中に、 (A1点)

無駄に (B1点)

大勢おります女性たちのうちから、 (C2点)

それほど器量がよくないような者を、 (D3点)

一人選び出して異民族の者にお与えになるのがよろしいでしょう。 (E3点)

◎各加点要素の加点の条件

A【1点】 この後宮の中に、

※「後宮(宮中・王宮・宮殿)に・宮仕えしている」などでもよい。「宮に」のまま、「宮中の中に」(重複表現)は×。

B【1点】 無駄に

※「甲斐もなく」でもよい。「やたら」などは×。

C【2点】

※「大勢」の意がない場合は減点1点。

※「おります」(丁寧表現)は「お仕えしている・帝に侍っている」という謙譲表現でもよい。丁寧にも謙譲にもなっていない場合は減点1点。(「いらっしゃる・いらっしゃいます」など尊敬表現になっている場合は減点。)

※「女性たち」は「女・人」などでもよい。

※「のうちから」は「の・で」などでもよい。

D【3点】

※「器量がよろしくない」は「容姿が悪い・大した容貌でない」などでもよく、「器量」に当たる語がない「美しくない・かわいくない」などでもよい。

「良くない」「寵愛していない」など、容姿に言及していない場合は×。

※「さほど」は「たいして・それほど・あまり」などでもよい。これがない場合は減点1点。

※「者」は「女性・女」などでもよい。

E【3点】

※「一人」がなければ減点1点。

※「お与えになる・与えなさる」が「与える」など尊敬表現になっていない場合は減点1点。(「さし上げる・さし上げなさる」など謙譲表現になっている場合は減点) 「選び出す」は不問。

※「のがよい」「くすべきた」の意がなければ減点1点

※「異民族の者に」がない場合は減点1点。「異民族の者」は「異民族・匈奴・(北方の)遊牧民族・えびす・えびすのようなもの・異国の者」など、また、それらに「の王」がついたもの、「異国の王・呼韓邪单于」、などでもよい。「えびすのやうなもの」は減点1点。

(2) 10点

【模範解答例】王昭君を異民族の者にお与えになる時になって、 (A 2点)

帝が王昭君をお呼びになって御覧になったところ、 (B 4点)

王昭君の容貌は、本当に宝玉が光り輝くかのようで、

筆舌に尽くしがたいほどに美しかったので、 (C 4点)

◎各加点要素の加点の条件

A【2点】

- ※「王昭君を与える(渡す)時に」の意がない場合は×。「王昭君」はA以外で明らかになっていればここになくてもよい。また「女」となってもよい。「娘」は×。「王昭君」も「女」も明らかでない場合は×。
- ※「異民族に」はなくてよい。「お与えになる」は尊敬表現がない「与える・渡す」などでもよい。
- ※「時になって」は「ことが決まって」などでもよい。

B【4点】

- ※「呼んで見た(会った)」の意がない場合は×。
- ※「帝が」がない場合は減点1点。「帝が」はAで明らかになっていなければここになくてもよい。
- ※「王昭君を」はB以外で明らかになっていなければここになくてもよい。どこにもない場合は減点1点。
- ※「お呼びになって」が「呼んで」のように尊敬表現になっていない場合は減点1点。
- ※「御覧になった」が「見た」のように尊敬表現になっていない場合は減点1点。
- ※「ところ」は「と・時・時に」でもよい。「ので・から・のに」等は減点1点。

C【4点】

- ※「王昭君の容貌は」は「王昭君が」などでもよい。「王昭君が」はC以外で明らかになっていなければここになくてもよい。どこにもない場合は減点1点。
- ※「本当に」は「実に」などでもよい。これがない場合は減点1点。
- ※「宝玉が光り輝くかのようで」がない場合は減点1点。「宝玉」は「宝石」などでもよい。「玉」のままは減点。「宝玉」に当たる語がない場合は減点。
- 「ようで」のように比喩を示していない場合は減点。
- ※「筆舌に尽くしがたいほど」は「何も言えない(ほど)・言葉が出ない」などでもよい。これがない場合は減点2点。「これ以上ない」などは減点。
- ※「美しかった」がない場合は減点1点。「素晴らしかった・優れていた」などは、主語が「王昭君の容貌(姿)」となっている場合に限りよしとする。主語が「王昭君」の場合は減点。
- ※「ので」は「ため・から」でもよい。これら以外は減点1点。

(3) 10点

【模範解答例】異民族の者が、(A 1点)

王昭君をいただくことになっていると聞いて参上してしまったので、(B 5点)

帝はあらためて差し出す女性を選び直してお決めになる余裕もなくて、(C 4点)

◎各加点要素の加点の条件

A【1点】

※BもCも0点の場合は、得点できない。

※「異民族の者」は「異民族・匈奴・(北方の)遊牧民族・えびす・えびすのようなもの・異国の者」など、また、それらに「の王」がついたもの、「異国の王・呼韓邪单于」でもよい。「えびすのやうなもの」は×。

B【5点】

※「もらうと聞いて来た」の意がない場合は×。

※「帝から」は不問。

※「王昭君を」がない場合は減点1点。(「女を・その女を・娘を」などは減点。)

※「いただく」がない場合は減点1点(「引き取り申し上げる」などでもよい。「もらう」など謙譲表現にならない場合は減点)

※「ことになっている(なった・なる)」(予定)は「だろう・はずだ・に違いない」(推量)・「ことができる」(可能)・「のがよい」(適当)でもよい。これら以外や、ない場合は減点1点。

※「と聞いて参上してしまった」の意がない場合は減点1点。「(参上して)しまった」は「参上した・参内した・参った」でもよい。「来た」のように謙譲表現になっていない場合や「参上なさる」のように尊敬表現がある場合は減点。「聞いて」は、「うかがって・お聞きして」のように謙譲表現になっているのはよしとするが「お聞きになる」のように尊敬表現になっている場合は減点。)

※「ので」は「ため・から」でもよい。これら以外は減点1点。

C【4点】

※「帝は」がない場合は減点1点。

※「あらためて」は「再び・再度」でもよいが、これがない場合は減点1点。

※「差し出す女性を」の意がなければ減点1点。「女性を・女を・王昭君の代わりを・代わりの女性を・与える人を」などでもよい。(「いただく女・さしあげる人・娘」などは減点)

※「選び直してお決めになる」は「選び直しなさる・決め直しなさる・お決めになる・変更なさる」などでもよい。尊敬表現になっていない場合は減点1点。尊敬表現は「れる・られる」でもよしとする。

※「余裕もなくて」は「できなくて・なくくて・せず」などでもよい。

問二 10点

【模範解答例】他の女性たちが、 (A 1点)

絵師に金品を贈り、実際以上に美しく自分を描かせて、 (B 3点)

異民族の者に与えられる女性の人選にもれるようにしたのに、

王昭君は容姿に自信があり、賄賂を贈らなかったため、実際より不器量に描かれ、異民族の者に与えられる女性に選ばれてしまったから。 (C 6点)

◎各加点要素の加点の条件

※ 「宮女の中から異民族に与える女を選ぶ際、宮女が大勢いたので、絵師に似顔絵を描かせて、その絵で器量の悪い女を選ぶことにした」など、選考の事情についての説明の有無は不問。

A【1点】「他の女性たち」と王昭君との違いが明記してあればよい。「王昭君は他の女性たちと違って」などでも可。

※ Bが0点の場合は、得点できない。

B【3点】他の女性たちがやったことの説明

※ 「(絵師に) 金品/賄賂/金を贈って」の内容がなければ1点減点。

※ 「(実際に) 美しく書かせて」の内容がなければ1点減点 (醜く描かせてなどは減点)

※ 「異民族に与えられないように」「異民族に与えられるのを恐れて」の内容がなければ減点1点。

C【6点】王昭君についての説明

※ 「王昭君」というCの主語の有無は不問。

※ 「容姿に自信があり」がない場合は減点2点。「自信」の意がないときに減点

※ 「(絵師に) 賄賂/金品/金を贈らなかった」がない場合は減点2点。「何もなかった」は、Bに「絵師に金品を贈り」がある場合のみ可)

※ 「実際より不器量に描かれ」は「不器量に描かれ・醜く描かれ」の意がない場合や「美しく描かれた」となっている場合は減点1点。

※ 「異民族の者に与えられる女性に選ばれてしまった」「異民族に与えられた」の意がなければ減点1点。「異民族の者に与えられる女性を」帝は決め直せなかった・帝は王昭君に決めた・帝は王昭君を選んでしまった」などは可。「決めた・選んだ」の意がない「帝が後悔しても遅かった」などは減点。

問三 10点

- 【模範解答例】 本文では、宮女の中から異民族の者に与えてもよい、より不器量な女性を選ぶことを目的としており、 (A 5点)
『西京雜記』では、大勢の宮女の中から帝が寵愛するに足る美しい女性を選ぶことを目的としている。 (B 5点)

◎各加点要素の加点の条件

- ※ 「帝が絵師に女たちの絵を描かせた目的は」といった説明の有無は不問。
- ※ AとBの説明の順は逆でもよい。

A【5点】 本文における目的

- ※ 「本文では」が明らかでない場合はAは×。「この文章では・今回は」などは減点1点。
- ※ 「宮女の中から」は不問。
- ※ 「異民族に与える者を選ぶ」の意がない場合は減点2点。「異民族」は「匈奴・(北方の)遊牧民族・えびす・えびすのようなもの・異国の者」など、また、それらに「の王」がついたもの、「異国の王・呼韓邪单于」などでもよい。「えびすのやうなもの」は減点1点。
- ※ 「不器量な者を選ぶ」の意がない場合は減点3点。「不器量な者」は「美しくない人」などでもよい。「器量・容貌」のことを言っていることが読み取れない「よくない人」、どのような「器量・容貌」のことだと分からない「異民族に渡してよい容貌の者・寵愛したくない女」などは減点。「者」は「女・女性・人」などでもよい。「娘」は減点1点。
- ※ 「目的として」は不問

B【5点】 『西京雜記』における目的

- ※ 『西京雜記』では「が明らかでない場合はBは×。『』は なくてもよい。「漢文では・この文は・これは」などは減点1点。
- ※ 「大勢の宮女の中から」は不問。
- ※ 「帝が寵愛する者を選ぶ」の意が全くない場合は減点2点。「寵愛」という表現があれば「帝が」はなくてもよいが、「愛する」などとなっている場合は「帝が」がなければ減点1点。「寵愛する・帝が愛する」があるが「選ぶ」の意がない場合は減点1点。
- ※ 「美しい者を選ぶ」の意がない場合は減点3点。「器量・容貌」のことだと分からない「よい人」などは×。「者」は「女・女性・人」などでもよい。「娘」は減点1点。
- ※ 「目的としている」不問。